

令和5年入学式式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日、ここに本科生208名、留学生3名、編入学生2名、専攻科生38名、合わせて251名をお迎えすることになりました。在学生、教職員一同、心から歓迎いたします。

皆さんが入学されたこの群馬工業高等専門学校は、高等専門学校制度創設と同じ、1962年（昭和37年）、実践的・創造的技術者を養成することを目的とした5年間一貫教育を行う高等教育機関として開校されました。また、1995年（平成7年）には専攻科が設置されました。

「科学技術を通し、地球と人の調和をはかり、人類の繁栄に貢献できる人材を育成する。」ことを教育理念として教育・研究活動に取り組み、本年3月で、本科・専攻科をあわせて10,108名の卒業生を輩出してきており、それぞれの道で活躍されています。

さて、皆さんは、「アントレプレナーシップ」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。この「アントレプレナーシップ」ですが、一般的には、「会社・企業を新しく立ち上げる起業家精神」、「新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢」などといった意味で使われています。

他方、本校では、「高専生に求められるアントレプレナーシップ」として、「社会課題を、発想力・想像力を基にチャレンジして、主体的に解決する力」と「人と協力し、新しい事業やプロジェクトを実現する力」の2本の柱に整理し、これらを身につけるために必要な教育プログラムや、実践に導くための活動を実施するとともに、学生たちが考案したアイデアを具現化するために、試作等を行う場として工房やスタジオを開設するなど、正規のカリキュラムと連携しながら、これまで以上に、学生たちのチャレンジを後押しし、アイデアやその想いを実現していけるような様々な取組を、文部科学省の支援を得て、今年度より段階的に進めていくこととしています。

今、ここにいる新入生の皆さんは、それぞれ叶えたい夢や目標、想いを持って、本校に入学されたと思います。その夢や目標を叶えるためには、知識や技能の習得だけでなく、ポジティブなマインドセット、そして協力してくれる人とのつながりが必要不可欠です。

在学中には、勉強や実習・研究はもちろん、部活動やいろいろなコンテスト、大学や自治体、企業等と連携した取組等もあり、学校内外においてチャレンジで

きる機会が数多くあります。そして、先ほど申し上げたように、今年度からは、皆さんのチャレンジをこれまで以上に支援するための取組を始めます。

新入生の皆さん、ぜひ、こうした様々な活動に、積極的に取り組んでください。これらの活動を通して、多くのことを経験し、学んでください。さらには、教職員はもちろん、多くの友人や先輩と交流し、企業や自治体をはじめとした学外の方々と出会う機会を数多く持つてください。

皆さんにとって、新たなチャレンジは勇気が要ることかもしれません。しかし、こうした活動を通して得た知識、技能、ノウハウ、気づき、新しい考え、人とのつながり…。これらは皆さんの夢や目標、想いを叶えるための大きな財産となるでしょう。

「一期一会」。皆さんもご存知のとおり、「もしかしたら二度とは会えないかもしれないという覚悟で人には接しなさい」と、人との出会いの大切さを表した言葉です。しかし、私は機会・チャンスなどにもこの「一期一会」は通じるものがあると思っています。

皆さんにも、これからの学校生活の中で、何らかの機会・チャンスが巡って来ることがあるでしょう。そのチャンスは、一見、次もあるように見えても、もしかしたら二度と無いかもしれません。

だからこそ、せっかく巡り会ったチャンスを躊躇して逃すことなく、出会った人たちとの関わり合いを大切にしながら、いろいろなことにチャレンジしてください。我々教職員は、皆さんの学びを、活動を、チャレンジを、全力でサポートしていきます。

保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。また、ご来賓の後援会会長の吉田様、御多用の中、ご参会いただきありがとうございます。

高専は、中学・高校とは異なり、高等教育機関として、学生たちの自主性を尊重した教育を行っており、もしかしたらこうした教育環境に戸惑うこともあるかもしれません。皆様の温かい見守り、励ましが、学生にとって、なによりの支えとなります。ぜひご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

改めて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんがここ群馬高専において、様々なことにチャレンジし、心身ともに充実した、有意義な学生生活を送られることを祈念して、式辞といたします。

令和5年4月5日

群馬工業高等専門学校 校長
三 谷 卓 也